石巻日日新聞　2022年7月1日

日　新　聞

ごみを分けて再資源化

小学校でSDGs授業

東北大と東松島市が連携

東北大学と東松島市主催の「産学連携SDGs（持続可能な開発目標）出前授業」が12日まで市内6小学校で行われている。6月28日は赤井小と鳴瀬桜華小であり、東北大学大学院の劉庭秀教授が廃プラスチックの適正処理や再資源化などを伝えた。

子どもたちがプラスチックについて学んだ

出前授業は身の回りで起きている社会問題をSDGsの視点から学び、解決方法を考えてもらうきっかけにしようと企画。プラスチックの皿を扱う民間企業、再資源化に取り組む県担当者などが協力した。

劉教授は世界の廃プラ発生量で「1980年の0・5億㌧から2015年までに6倍まで増えた。先進国でストローやレジ袋など使い捨てのものを使いすぎた」と指摘。開発途上国でも使い捨て容器の使用料や排気量が増加しているとした。

その上で、身近なプラスチックを材料とするペットボトルの分別では「キャップとラベルは別素材で、それぞれ再利用の用途が異なる。中には素材を一目で判断できないものがあり、分別の時は表示を確認してほしい」と呼び掛けた。

授業では、鉄や銅の再資源化、トウモロコシを使用したプラスチック製品なども現物で紹介。廃車の再資源化では「車体は鉄、部品は銅、内装はプラスチック。高級車のサイドミラーには内部にモーターがあるため、安価な車の方がリサイクルしやすい」などの豆知識も披露された。

赤井小4年の深堀翔さんは「SDGsのことがよく分かった。分別をあまり知らず、プラごみを燃えるごみに入れていた。世界を大切にできるようSDGsに取り組む」と話していた。出前授業は7月11日に矢本西と宮野森、12日に矢本東と大塩の各小学校で行われる。【横井康彦】